

[番組名] 群馬テレビ「ビジネスジャーナル」

[放送日] 2013年4月12日

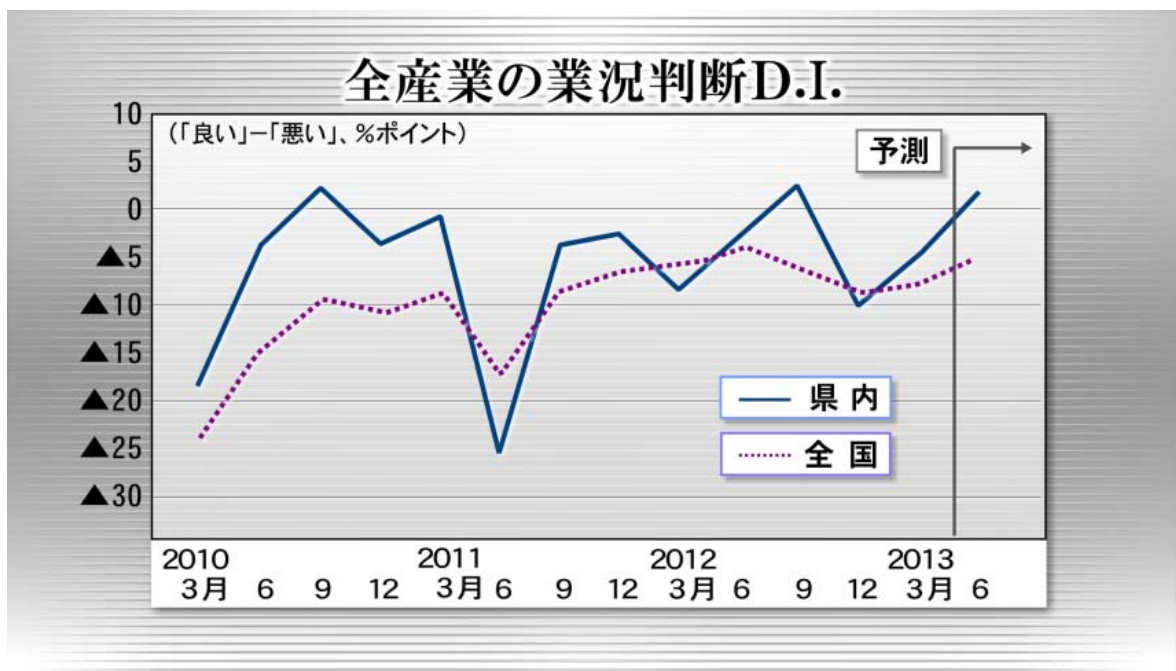
[テーマ] 持ち直しの芽が出てきた県内経済

(キャスター) 『プラスオピニオン』のコーナーは、日本銀行前橋支店長の相良雅幸さんです。本日のテーマは、『持ち直しの芽が出てきた県内経済』ということで、先行き明るい話題という感じがしますが、よろしくお願いいたします。

(相良支店長) よろしくお願ひします。

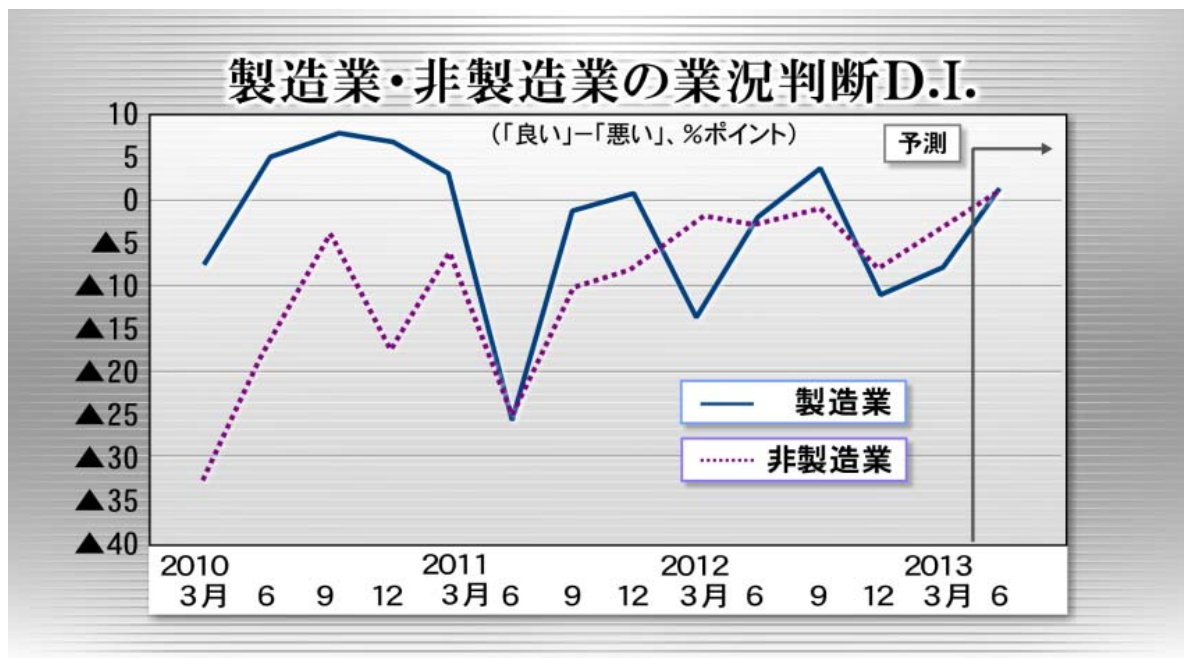
県内経済は、昨年冬頃に持ち直しの動きが一服し、その後ほぼ横ばいの状態が続いてきましたが、春の訪れとともに、再び持ち直しの動きが出てきました。こうした動きを、3月に実施し、先週公表した「企業短期経済観測調査」、いわゆる日銀短観の結果からみてみましょう。

まずは、「業況判断D. I.」をご覧ください。



(相良支店長) このD. I. は、業況が「良い」と答えた企業の比率から「悪い」と答えた企業の比率を引いたものです。「良い」と答えた企業が多いほど、数値は高くなります。青色の線が県内の動き、赤色の点線が全国の動きです。今回の調査では、全産業が▲5と、前回の▲10から改善しました。改善したのは、昨年9月調査以来半年ぶりのことです。先行きは、+2とさらに改善する予想です。なお、全国のD. I. も、前回の▲9から今回▲8、先行き▲5と徐々に改善しています。

(相良支店長) 次のフリップをご覧くださいたいのですが、こうした改善は青色の製造業、赤色点線の非製造業ともにみられます。いずれも、足許マイナス幅が縮小し、先行きプラスへ転化するとの予想です。



(キャスター) 県内の業況判断が半年ぶりに改善したのは、どのような理由からでしょうか。

(相良支店長) はい。その点については、D. I. が改善傾向にある業種をもとにご説明します。次のフリップをご覧ください。

業種別の業況判断D.I. 「良い」-「悪い」、%ポイント

		12年12月	13年3月	6月(予測)
製造	輸送用機械	30	35	30
	業務用機械	▲34	0	33
	化学	▲57	0	0
	非鉄金属	▲100	▲75	0
	窯業・土石	▲25	▲25	25
非製	建設	▲10	0	5
	宿泊飲食サービス	▲13	▲12	0

(相良支店長) 製造業では輸送用機械や業務用機械、化学や非鉄金属、窯業・土石などで改善しており、先行きにかけては一部の業種を除いて、プラスまたはゼロという結果です。製造業の「業況判断D. I.」が改善している背景には、海外経済の持ち直しや昨年冬頃からの円安効果が輸出企業にプラスの影響を与えていることが挙げられます。海外経済は、堅調な米国経済に加えて中国経済も持ち直しの動きが高まっており、こうした国へ直接輸出している企業や、輸出品の部品や部材を作る企業の中に、景況感が改善している先が増えてきています。非製造業では、建設や宿泊・飲食サービスなどで改善しています。建設は新政権のもとで予算手当がなされた公共投資への期待、宿泊・飲食サービスは観光地での入込客増加などが、業況改善の背景となっています。ただ、改善してきたとはいえ、そのテンポはまだ緩やかです。全産業の先行き判断+2は、昨年9月調査と同じ水準であり、リーマンショック以前の水準までには戻っていません。

(キャスター) このような業況判断の改善というのは、企業の事業計画にどのような影響を与えているのでしょうか。

(相良支店長) はい。その点について、今年度の事業計画でご説明します。

2013年度の事業計画			前年度比 %
	売上高	経常利益	設備投資
全産業	0.8	4.3	▲2.8
製造業	1.6	14.3	▲5.1
非製造業	▲0.1	▲1.2	1.8

(相良支店長) 全産業の2013年度、つまり今年度の事業計画は、増収増益となる計画です。ただし、売上高の前年比が+0.8%、同じく経常利益が+4.3%とプラスの幅はわずかです。とくに、非製造業ではそれぞれ若干のマイナスと非常に慎重です。

(相良支店長) このような慎重な態度は、設備投資計画にも表れています。今年度の設備投資計画は、全産業で前年比▲2.8%と2年連続のマイナス計画となっており、とくに製造業の投資計画が抑制的です。

このように、今年度の事業計画が慎重な結果となったことは、業況判断の改善テンポが緩やかなことをそのまま反映しています。

その背景には、海外経済の持ち直しや円安効果、公共投資への期待はあるのだけれども、まだ実感が沸かない、つまり実際の受注や生産活動に結びついている先が限られていることが挙げられます。県内には輸出企業のサプライヤーや下請企業が多いので、円安効果などが表れるには多少の時間差があるのだらうと思われれます。こうした企業の慎重な態度は、先行きの為替相場についてもみられており、来年度の対ドル相場を84円台と、今より15円程度円高で想定しているのです。

今後、こうした慎重な事業計画が、業況判断の変化とともに、どのように修正されていくのか、よく見ていく必要があると思っています。

(キャスター) 今回の短観調査では、持ち直しの動きは出てきたけれども、まだ緩やかという結果のようですが、ほかに特徴的な動きはみられたのでしょうか。

(相良支店長) はい。今回の調査では、価格判断D.I.に、これまでにない動きがみられました。この点を、次の表で具体的にみてみましょう。

全産業の価格判断D.I.

「上昇」―「下落」、%ポイント

	12年12月	13年3月	6月(予測)
仕入価格	6	18	36
販売価格	▲16	▲10	▲9

(相良支店長) 仕入価格の判断D. I.、これは「上昇」と答えた企業が多いほど、数値が上がりますが、このD. I. は、前回の+6から今回+18、先行き+36と、上昇を見込む企業が急速に増えています。一方、販売価格の判断D. I. は、前回▲16から、今回▲10、先行き▲9と「下落」と答えた企業が徐々に減る結果となりました。仕入価格の上昇予想は、最近の円安や国際商品市況の上昇による燃料や輸入品の価格上昇を反映しているように思われます。仕入価格に比べて販売価格の上昇が緩やかであると、企業の収益にも影響が及ぶと考えられますので、今後の物価の動向についてはよくみていく必要があります。

(キャスター) 最後に、今後の景気をみていくうえでの注目点としては、どのようなことがありますか。

(相良支店長) 注目すべきポイントについて、次のフリップにまとめてみました。

今後の注目ポイント

- 1 輸出
- 2 賃金
- 3 公共投資

(相良支店長) まずは、輸出の動向です。海外経済は、米国やアジア諸国を中心に、今後持ち直しの度合いを高めていくと予想されます。これに円安効果加わって、輸出企業の輸出が増え、その輸出企業に部品・部材を販売する企業の受注や生産が増えることが期待されます。輸出は、海外経済の持ち直しの度合いや為替相場の動向によって変化しますので、こうした外部環境の動きと輸出面への影響が重要なポイントになります。

第2に、賃金の動向です。企業の収益が改善してくると、雇用や家計の所得にもプラスの影響が出てきます。今年の春闘では、大手の流通業者や自動車メーカーなどが相次いで一時金やベアなどの増加を打ち出しています。こうした動きが中小企業にも広がっていけば、家計の給与が増加し、その結果、消費も増えていくと思われま。県内企業の大部分が中小企業ですので、その賃金動向が大いに注目されます。

第3に、公共投資の動向です。国や県の予算では、公共事業の増加を盛り込んでいます。しかし、工事の本格発注はまだこれからです。関連業界にはプラスの効果がありますので、工事の規模やタイミングをみていく必要があります。

(キャスター) 今日は、『持ち直しの芽が出てきた県内経済』ということで、お話をうかがいました。ありがとうございました。

以 上